

令和8年(2026年)

3

No.833

The Religion News

宗教新聞

https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
© 宗教新聞社 2026

購読料 1部 500円
(税込) 半年 3,000円(〒共)
年間 6,000円(〒共)

誇るべき国柄を次の世代へ

建国記念の日奉祝中央式典

明治神宮会館

令和8年(皇紀2686年)2月11日、昭和100年の節目を迎えた建国記念の日、日本再生への決意を新たに「建国記念の日奉祝中央式典」(日本の建国を祝う会主催、葛城奈海会長)が東京都渋谷区の明治神宮会館で開かれた。式典には約400名の参加者のほか、特命全権大使を含む25カ国の在日外交団も参列した。



2月11日、東京・渋谷区の明治神宮会館で開催された建国記念の日奉祝中央式典

式典は午後1時に第一部の奉祝中央式典が開始された。続いて、参加者は国旗を通して「神皇正統記」の朗読、国歌が斉唱された。その後、主催者挨拶として木下龍輝副会長が葛城会長の挨拶を代読した。「本日2月11日は、今から2686年前、日向の国を築かれた初代神武天皇が、幾多の苦難を経て御東征を成し遂げられ、大和国畝傍山(うねびやま)の辰巳(東南)に位置する橿原の地において、天皇の位にお即きになられた日である。明治6年には、この日が『紀元節』として祝日に定められた。祖国の永遠の平和と繁栄のために尽くす決意を新たにすべき日であり、政府自らが奉祝式典を速やかに実現することを願いたい」と述べた。

来賓の挨拶として、木原稔官房長官は「この日にあたり、日本列島を強く豊かにし、そして皆様とともに誇るべき日本を、次の世代へと確かな形で繋いでいくため、全身全霊を傾けて国政に取り組む決意を新たにしたい」と述べた。また、片山さつき財務相は「責

任ある積極財政」という旗のもと、教育や学校給食の無償化とともに、神社仏閣の重要文化財・国宝に対する負担割合についても改めて検討し、伝統をしっかりと守っていきたい」と語った。

また、各党を代表して自民党の井上信治衆議院議員は「我が党の党是である憲法改正についても、国家の基盤を将来世代に責任を持って引き継ぐため、引き続き国民的議論を深め、国会発議を目指して全力を尽くす」と述べ、日本維新の会の石井苗子参議院議員は「政権のアクセル役として皇室や憲法など国家の基本問題に真摯に取り組む、議論をリードしていくことを約束する」と語った。

先月の冬季五輪で、天地子が特に印象に残ったのは女子スピードスケートの高木美帆選手である。高木選手は「求道者」と言われる。レースに臨む姿や滑り終えてからの佇まい、そして語った言葉がそれを強く感じさせた▼これまで「一生懸命これ以上なすべないくらいやって、それでもダメだったのが挫折と思う。そのときの自分はまだまだ一生懸命やっていなかった」次の時代に何を残していくかが、メダルを取った意味につながってくる。さらなる人間力、競技力の向上を目指して努力していきたい」と語り、今回のレース終了後には「皆さんに伝えたい気持ちの中で唯一言語化できていないものは『ただ、ありがとう』とSNSに記している▼もう一人、同じように求道者の印象を受けたのは東京五輪柔道の金メダリスト、大野将平選手だ。大野選手は「自分は何者なのかを確かめるために、証明するために戦うことができたい」と語っている▼二人の言葉に、見えない世界を必死に求めて歩む、心の響きのようなものを感じた。